2026年度

郡山健康科学専門学校
講義概要

理学療法学科
2年生

学校法人こおりやま東都学園

専門基礎分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
解剖学実習	吉田 俊太郎	吉田

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	前期	15(30)	演習・実習	1

【授業の概要・目的】

理学療法評価や臨床推論を行う際に必要な知識を習得するため、実物標本やモデル標本を用いて、人体の形態と構造について理解を深める.

【学習目標(到達目標)】

①専門職にとっての形態学と構造学を述べることができる.
②形態学的知識を強化し, 身体運動に関係する諸器官の形態と機能の関係を説明できる.
③ご献体に敬意を持ち, 医療人として相応しい真摯な態度で実習を行うことができる.

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
統合的学習体験

【履修上の注意】ご献体に接する際は、故人を尊重し感謝すること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	学内解剖学実習(1)	脊柱の骨に関しての知識を習得する。 (実物標本やモデル標本)	個人・グループ
2	学内解剖学実習(2)	脊柱と胸郭の骨に関しての知識を習得する。 (実物標本やモデル標本)	個人・グループ
3	学内解剖学実習(3)	骨盤の骨に関しての知識を習得する。 (実物標本やモデル標本)	個人・グループ
4	学内解剖学実習(4)	上肢の骨に関しての知識を習得する。 (実物標本やモデル標本)	個人・グループ
5	学内解剖学実習(5)	上肢の骨に関しての知識を習得する。 (実物標本やモデル標本)	個人・グループ
6	学内解剖学実習(6)	下肢の骨に関しての知識を習得する。 (実物標本やモデル標本)	個人・グループ
7	学内解剖学実習(7)	下肢の骨に関しての知識を習得する。 (実物標本やモデル標本)	個人・グループ
8	学内解剖学実習(8)	頭蓋の骨に関しての知識を習得する。 (実物標本やモデル標本)	個人・グループ
9	学内解剖学実習(9)	頭蓋の骨に関しての知識を習得する。 (実物標本やモデル標本)	個人・グループ
10	特別講義(1)	(仮題)解剖学とその臨床応用について	個人
11	特別講義(2)	(仮題)解剖学実習で何を学ぶのか	個人
12	オリエンテーション	解剖学実習時の接遇面、注意点	個人
13 14 15	解剖学実習	オリエンテーション 標本の見学 ご献体の見学 体表・筋・血管・神経・内臓・骨・脳神経系の確認	グループ

期末試験	筆記試験(学内実習のみの場合)	評価方法	実習評価 100%	

【教科書】	解剖学(PT/OTビジュアルテキスト)
【参考書】	講義の中で適宜紹介します。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学の復習

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
生理学Ⅱ(1/2)	川﨑　萌絵	川﨑

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

生体維持や生命活動の基盤となる様々な仕組みを、各臓器、システムごとに系統的に学ぶことにより、人体の生理機能の全体像を理解し、種々の疾病時における病態を理解するための基礎的な知識を身につけます。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①内臓器官がどのように生命維持を担っているのか理解し説明できる ②内臓器官の正常な機能をイメージしながら理解することができる ③内臓器官の正常な機能が失われた状態とその原因について生理学的に説明できる	知識・理解 論理的思考力

【履修上の注意】単語帳の用意をしてください。教科書指定の電子書籍のアプリをダウンロードしていただきます。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	呼吸生理	肺胞でのガス交換を拡散の原理から説明できる	個人
2	呼吸生理	換気と血流が重力などの影響により変化する現象を説明できる	個人
3	呼吸生理	血液によるガス運搬および酸塩基平衡について説明できる	個人
4	循環生理	心拍数・心拍出量・血圧の調節について説明できる	個人
5	循環生理	心筋線維特有の構造について説明できる	個人
6	血液・免疫	赤血球の産生の調節およびサイクルについて説明できる	個人
7	血液・免疫	免疫による生体防御(自然免疫・適応免疫)について説明できる	個人
8	血液・免疫	免疫異常(アレルギー)について説明できる	個人
9	消化・吸収	生命維持に重要な栄養素の消化と吸収について説明できる	個人
10	腎・泌尿生理	腎臓による水・電解質・pHの調節機構について説明できる	個人
11	生殖・細胞分裂・発生	生殖器の構造と働きについて説明できる	個人
12	生殖・細胞分裂・発生	細胞分裂、各臓器の発生について説明できる	個人
13	内分泌	各内分泌器官から分泌されるホルモンの働きを説明できる	個人
14	内分泌	各内分泌器官から分泌されるホルモンの異常時の反応を説明できる	個人
15	まとめ	学習でポイントとなる部分について再度確認し、理解できる	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	Qシリーズ新生理学【電子版付】（日本医事新報社）
【参考書】	講義の中で適宜紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	毎時間の小テストに対する勉強を実施してください。勉強方法は授業内で伝達します。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
生理学Ⅱ(2/2)	川﨑　萌絵	川﨑

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

生体は各組織、器官、系統の機能が統合されて生命活動が維持されている。そのためには神経系による調節が必要である。神経系の機能を学ぶことにより、正常な生理機能のみならず疾病時の生理機能の変化についても理解を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①感覚機能、運動機能、自律機能の神経系による調節機構および統合機能について学ぶ。 ②行動やその手順を形成する高次脳機能について学ぶ。 ③正常な中枢神経機能を理解することにより、臨床医学を学ぶ基礎を構築する。	知識・理解 論理的思考力

【履修上の注意】予習・復習を行う。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	神経系の構成	神経系(中枢神経系および末梢神経系)の概要を理解する。生命活動における神経系の意義を理解する。	個人
2	神経系の基礎	ニューロンの形態、ニューロンの興奮とその伝導、シナプス伝達について理解する。	個人
3	末梢神経系	脳神経と脊髄神経の形態と機能について理解する。自律神経系の形態と機能について理解する。	個人
4	脊髄の形態と機能	脊髄の形態と機能について理解する。脊髄反射について理解する。	個人
5	脳幹の形態と機能(1)	生命活動における脳幹の役割を理解する。延髄の形態と機能について理解する。	個人
6	脳幹の形態と機能(2)	橋と中脳の形態と機能について理解する。脳幹における上位中枢と下位中枢の連絡経路について理解する。	個人
7	小脳の形態と機能	小脳の形態と機能について理解する。小脳と脊髄、脳幹、視床、大脳との相互の連絡経路について理解する。	個人
8	間脳の形態と機能	視床の形態と機能を理解する。視床下部の形態と機能について理解する。	個人
9	大脳の形態と機能(1)	大脳皮質の形態、機能局在と連合機能、大脳各領域間相互の連絡について理解する。	個人
10	大脳の形態と機能(2)	大脳辺縁系と大脳基底核の形態と機能について理解する。脳脊髄液の循環と機能について理解する。	個人
11	運動の制御	骨格筋の運動に関与する末梢神経とそれを制御する中枢神経系の機能について理解する。	個人
12	感覚系(1)	感覚系の概要を概説し、感覚器(視覚)の形態と機能、その中枢への連絡経路について理解する。	個人
13	感覚系(2)	感覚器(聴覚、平衡感覚および深部感覚)の形態と機能、その中枢への連絡経路について理解する。	個人
14	感覚系(3)	感覚器(嗅覚、味覚、皮膚感覚および痛覚)の形態と機能、その中枢への連絡経路について理解する。	個人
15	神経系総括、練習問題	神経系の統括として、練習問題を解き、解説する。	個人
期末試験	筆記試験を行う	評価方法：筆記試験 100%	

【教科書】	Qシリーズ新生理学【電子版付】（日本医事新報社）
【参考書】	講義の中で適宜紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】毎時間の小テストに対する勉強を実施してください。勉強方法は授業内で伝達します。

【本講義に関しての質問先】担当教員　【質問方法】教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
運動学Ⅱ(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	樫村　孝憲 病院勤務(理学療法士)14年	樫村

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

主な骨表示点、筋(起始・停止・走行)、拍動が触れられる動脈、末梢神経、靭帯などを確認し、体表より触診する技術を獲得する。身体運動の基礎となる原理を理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①体表解剖の理解を深める。 ②表層の筋、ランドマーク、動脈、末梢神経を触知できる。 ③触診技術を習得する	専門職としてのｽｷﾙ・意識 知識・理解 態度・志向性

【履修上の注意】解剖学をしっかり復習した上で臨んでください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	運動学Ⅱ総論	運動学的思考から姿勢・動作を理解する	個人
2	運動学・力学の理解	人体運動を科学的に理解するために必要な運動学および力学の基礎を学び、それを基盤として姿勢および動作の評価・分析技術を習得する。臨床・スポーツ現場での応用力を養うことを目的とする	個人
3			個人
4			個人
5	姿勢分析	静的および動的姿勢の評価方法を体系的に学ぶ。骨格アライメント、筋バランス、運動連鎖の観点から姿勢を分析し、機能障害やパフォーマンス低下の要因を特定する能力を養う。加えて、姿勢改善のための基本的介入戦略を理解する	個人
6			個人
7			個人
8			個人
9			個人
10	動作分析	ヒトの基本動作(立つ・歩く・走る・持ち上げる等)を対象に、バイオメカニクスおよび運動学・運動力学の観点から分析する能力を養う。臨床・スポーツ現場において問題点を抽出し、改善戦略を立案できる基礎力を修得する	個人
11			個人
12			個人
13			個人
14			個人
15	まとめ	姿勢・動作・歩行分析まとめを行う	個人

期末試験	評価方法			
筆記試験	レポート	80%	受講態度	10%
	課題の達成度	10%		

【教科書】	観察による歩行分析(医学書院)
【参考書】	基礎運動学(第7版 医歯薬出版)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】筋肉の走行・起始、停止を理解すること

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動学Ⅱ(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		樫村　孝憲 病院勤務(理学療法士)14年			樫村
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

対象者の歩行評価を行う為に、身体運動の基礎となる原理や諸理論を評価し、歩行動作から問題点を抽出する一連の過程を学びます。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①正常歩行で求められる機能を説明できる。 ②歩行動作から逸脱動作を抽出し線画を交え記述できる。 ③観察をもとに仮説を立て立証手段を列記できる。	考え抜く力 知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 問題解決力

【履修上の注意】教科書を持参して下さい

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション 総論	科目概要、本講義の意義、すすめ方の説明。 身体運動の基礎、観察と分析の意義。	個人
2	運動と生理機能	運動による呼吸・循環・腎機能の変化について学ぶ。	個人
3	運動の中枢神経機構	運動プログラム・フィードバック機構について学ぶ。	個人
4	身体運動のエネルギー代謝	身体運動によるエネルギー代謝について学ぶ。	個人
5	健常歩行の前提条件 歩行周期	ヒトの歩容(歩き方)の特徴および運動戦略について学ぶ。 健常歩行、正常とは、歩幅、歩隔、歩行周期、各相の役割・機能	個人
6	相分けと表記方法 歩行周期	線画(スティックピクチャー)の描き方、スマートフォンの利用方法を理解する。	個人
7	歩行の指標	歩容以外の指標について学ぶ。 歩行速度、ステップ、ストライドを計測しケーデンスを算出する。	個人
8	歩行観察①	健常者の歩行観察を行い、その結果を表記できる。	個人
9	歩行観察②	健常者の歩行観察を行い、その結果を表記できる。	個人
10	歩行観察③ 発表	観察の結果について、歩容の説明ができる。	個人
11	歩行分析①	症例を使用し、歩行観察から得られた結果について、その原因を仮説として挙げることができる。	個人
12	歩行分析②	症例を使用し、歩行観察から得られた結果について、その原因を仮説として挙げることができる。	個人
13	歩行分析③	仮説立証のための評価項目の立案とその解釈について学ぶ。	個人
14	歩行分析④	仮説立証のための評価項目の立案とその解釈について学ぶ。	個人
15	まとめ	まとめ	個人

期末試験	実施しない	評価方法	レポート 60% 小テスト 40%

【教科書】	観察による歩行分析(医学書院)
【参考書】	基礎運動学(第7版 医歯薬出版)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	関節の構造および筋の起始停止、作用について復習を行うこと

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
人間発達学 ※ 実務経験のある教員の授業科目	安中　聡一 病院（理学療法士）8年勤務	安中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

リハビリテーションの専門職として，対象者の課題をどのように解決し，支援すべきか考えるために，対象者の発達過程を理解する．本講義では，対象となる新生児から高齢者までの発達過程や，各ライフサイクルの特徴を総合的に学習する．

【学習目標（到達目標）】

①人間の発達をライフサイクルという視点に立って学び，各発達時期の特徴について理解する．

②身体，運動，認知，心理，社会性など，領域別の発達過程と特徴を理解する．

③各発達時期における課題および理学療法士としての関わり方を理解する．

【受講して得られる力】

知識・理解

専門職としてのｽｷﾙ・意識

情報活用能力

論理的思考力

【履修上の注意】　特になし

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	人間発達学総論	発達の基本法則，発達段階の分類について理解する． フロイト，エリクソン，ピアジェなどの発達理論を理解する．	個人
2	人間発達の見方と発達検査	人間発達の見方を理解し，発達検査の 進め方の概要を説明できる．	個人
3	胎児期・新生児期の発達	胎児期・新生児期の正常発達について， その発達学的特徴を理解し，説明できる．	個人
4	原始反射・姿勢反応	新生児期特有の原始反射について理解する． 発達過程で獲得する姿勢反応について理解する．	個人
5	乳児期の発達総論	乳児期の身体，運動，認知，言語，心理， および社会性の発達学的特徴を理解し，説明できる．	個人
6	乳児期の運動発達　新生児期～3か月	乳児期の運動発達過程を理解し，説明できる． 各姿勢での特徴や反応について理解する．	個人
7	乳児期の運動発達　4か月～6か月	乳児期の運動発達過程を理解し，説明できる． 各姿勢での特徴や反応について理解する．	個人
8	乳児期の運動発達　7か月～12か月	乳児期の運動発達過程を理解し，説明できる． 各姿勢での特徴や反応について理解する．	個人
9	幼児期前期・後期の発達	幼児期の身体，運動，認知，言語，心理， および社会性の発達学的特徴を理解し，説明できる．	個人
10	学童期の発達	学童期の身体，運動，認知，言語，心理， および社会性の発達学的特徴を理解し，説明できる．	個人
11	青年期・成人期の発達	青年期と成人期の身体，運動，認知，言語，心理， および社会性の発達学的特徴を理解し，説明できる．	個人
12	老年期の発達	老年期の身体，運動，認知，言語，心理， および社会性の発達学的特徴を理解し，説明できる．	個人
13	ADLの発達	各発達段階における情緒，社会性，ADL，遊びの発達について理解し，説明できる．	個人
14	上肢機能の発達	物の把持，リーチ，操作など，手の巧緻機能の 発達過程を理解する．	個人
15	まとめ	各ライフサイクルにおける発達過程を見直し， それぞれの特徴を説明できる．	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	なし．講義資料を使用する．
【参考書】	講義の中で適宜紹介します．

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	授業で説明した要点をよく復習しておいてください．

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
病理学	田村　浩一	樫村

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

「病気ってなに?」「人はなぜ病気になるの?」「病気になるとどうなるの?」ということを解き明かすのが病理学です。「病気と正常はどこが違うの?」「なぜ違いが出るの?」を考えながら病気について学びましょう。

【学習目標(到達目標)】

①「病気ってなに?」を理解できる
②「人はなぜ病気になるの?」を理解できる
③「病気になるとどうなるの?」を理解できる
④「病気と正常はどこが違うの?」を理解できる

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのスキル・意識
論理的思考力

【履修上の注意】 教科書を持参して下さい

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	病因論	イントロダクション:病気ってなあに？ ヒトはなぜ病気にかかるの？	個人
2	遺伝子異常と発生発達異常	遺伝子の異常で病気になるしくみを知ろう 遺伝性疾患と先天性奇形は、どこが違う？	個人
3	細胞傷害と修復(1)	身体の傷はどうやって治る？ 完全に元通りに治せない場合の「修復」のしかたは？	個人
4	細胞傷害と修復(2)	組織が死んだあとはどうなるの？ 肥大や萎縮と修復の関係を知ろう	個人
5	代謝障害(1)	物質の代謝がうまくいかなくなるしくみを考えよう あなた、貧血はありませんか？	個人
6	代謝障害(2)	糖尿病ってどんな病気？ 実は赤ちゃんの時から進んでいる、動脈硬化のお話	個人
7	循環障害(1)	血の巡りが悪いパターンにはどんなものがある？ 心筋梗塞はなぜ起こる？	個人
8	循環障害(2)	エコノミークラス症候群はなぜ起こるの？ 医学的にいうショックとは？	個人
9	炎症(1)	炎症は身体の防御反応！？ サイトカインってなあに？	個人
10	炎症(2)	急性炎症と慢性炎症のちがいを知ろう 免疫のしくみを知ろう	個人
11	炎症(3)	花粉症はありませんか？ アレルギーについて知っておかねばならないこと 自己免疫疾患ってどんな病気？	個人
12	腫瘍(1)	そもそも腫瘍って何だ？ 腫瘍についてのさまざまな用語を知ろう	個人
13	腫瘍(2)	癌(がん)と肉腫の違いは？ 悪性腫瘍の特徴を説明できますか？	個人
14	腫瘍(3)	どうしてがんになるの？ 腫瘍の病理診断(腫瘍の写真をみてみよう)	個人
15	まとめ	病理(細胞診・組織診・病理解剖)で何がわかるの？ 病理診断について知っておかなければならないこと	個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	図解入門よくわかる病理学の基本としくみ第2版(秀和システム)
【参考書】	シンプル病理学 改訂第6版 笹野公伸他(南江堂)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	教科書・配布資料を基に予習・復習をしっかり行って下さい

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床心理学	羽川　孝幸	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

臨床心理学は面白くて役に立つ学問である．自己理解や対象者理解，対象者支援に活用することができる．リハ介入理論にどのように臨床心理学が応用されているか理解し，ひとに関わる専門職としての知識基盤を身につける．

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①リハビリテーションに活用できる臨床心理学の基礎知識を身につけることができる．	知識・理解
臨床心理学を通した対象者理解と介入への知識・技法を身につける．	態度・志向性
心理検査の概要を理解し，検査結果の見方を身につけることができる．	情報活用能力
④リハビリテーションに有効活用できる心理学的な技法を体験し実践できる．	コミュンケーションスキル

【履修上の注意】配布資料を忘れずに持参すること．

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	臨床心理学とはなにか	基礎心理学を応用して現実世界で役立てる臨床心理学について理解する．	個人・ペア
2	心理検査1	パーソナリティとパーソナリティ検査について理解する．投影法と質問紙法の方法の違いついて理解する．	個人・ペア
3	心理検査2	知性と知能検査について理解する．知能検査の臨床的意味について理解する．	個人・ペア
4	心理検査3	神経心理学的検査とその他の心理検査について理解する．	個人・ペア
5	無意識・防衛機制と精神分析理論①	精神分析理論パラダイムの無意識・防衛機制といったキーワードからフロイトらの精神分析理論について理解する．	個人・ペア
6	無意識・防衛機制と精神分析理論②	精神分析理論パラダイムの無意識・防衛機制といったキーワードからフロイトらの精神分析理論について理解する．	個人・ペア
7	まとめ	講義の前半を中心に振り返り，臨床心理学についての理解を深める．	個人・ペア
8	クライエント中心と人間性心理学	人の「実現傾向」に重きをおいたロジャースらの人間性心理学について理解する．	個人・ペア
9	実験心理学と行動学習理論	実験心理学に基づく行動理論について理解する．人の学習と行動の結びつきを理解する．	個人・ペア
10	認知理論と認知行動療法	物事の捉え方をモデル化した認知理論について理解する．認知理論と行動理論が結びついた認知行動療法を理解する．	個人・ペア
11	臨床心理学を発展させた偉人	これまでの臨床心理学を発展させてきた偉人とその考え方や捉え方を理解する．	個人・ペア
12	それぞれの発達心理学	人の認知，感情，対人関係，パーソナリティなどの発達過程について理解する．	個人・ペア
13	心理療法のまとめ	理論に基づいた心理療法とその特徴と対象となる障害について理解する．	個人・ペア
14	臨床心理学とリハビリテーションの交流	臨床心理学的知見が現代のリハビリテーションにいかに組み込まれ応用されているかを理解する．	個人・ペア
15	まとめ	講義の後半を中心に振り返り，臨床心理学についての理解を深める．	個人・ペア

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 100% 0%

【教科書】	特になし
【参考書】	リハビリテーションのための臨床心理学．南江堂

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】講義時間内で取り組めるようにしています．講義内容をぜひ復習してください．

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
内科学(1/2)	杉原　敏道	杉原

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

リハビリテーション専門職として身につけるべき知識を得るため，内科的疾患の症候，および検査と治療の基礎を学ぶ.

【学習目標(到達目標)】
① 各疾患の病態の特徴について説明できる.
② 各種疾患の症候について説明できる.
③ 各種疾患の検査と治療について説明できる.

【受講して得られる力】
知識・理解

【履修上の注意】 教科書，配布資料を持参すること.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	呼吸器疾患 ①	主な呼吸器疾患の概要を学ぶ. 呼吸器疾患における病態の特徴を説明できる.	個人
2	呼吸器疾患 ②	各種呼吸器疾患の症候を学ぶ. 呼吸器疾患の症候について概要を説明できる.	個人
3	呼吸器疾患 ③	各種呼吸器疾患の検査と治療法を学ぶ. 呼吸器疾患の検査と治療法について概要を説明できる.	個人
4	循環器疾患 ①	主な循環器疾患の概要を学ぶ. 循環器疾患における病態の特徴を説明できる.	個人
5	循環器疾患 ②	各種循環器疾患の症候を学ぶ. 循環器疾患の症候について概要を説明できる.	個人
6	循環器疾患 ③	各種循環器疾患の検査と治療法を学ぶ. 循環器疾患の検査と治療法について概要を説明できる.	個人
7	消化管疾患 ①	主な消化管疾患の概要を学ぶ. 消化管疾患における病態の特徴を説明できる.	個人
8	消化管疾患 ②	各種消化管疾患の症候を学ぶ. 消化管疾患の症候について概要を説明できる.	個人
9	消化管疾患 ③	各種消化管疾患の検査と治療法を学ぶ. 消化管疾患の検査と治療法について概要を説明できる.	個人
10	肝・胆・膵疾患 ①	主な肝・胆・膵疾患の概要を学ぶ. 肝・胆・膵疾患における病態の特徴を説明できる.	個人
11	肝・胆・膵疾患 ②	各種肝・胆・膵疾患の症候を学ぶ. 肝・胆・膵疾患の症候について概要を説明できる.	個人
12	肝・胆・膵疾患 ③	各種肝・胆・膵疾患の検査と治療法を学ぶ. 肝・胆・膵疾患の検査と治療法について概要を説明できる.	個人
13	代謝性疾患 ①	糖代謝，脂質代謝，タンパク質代謝の基礎知識を学ぶ. 糖代謝およびエネルギー代謝について説明できる.	個人
14	代謝性疾患 ②	各種代謝性疾患の症候を学ぶ. 代謝性疾患の症候について概要を説明できる.	個人
15	代謝性疾患 ③	各種代謝性疾患の検査と治療法を学ぶ. 代謝性疾患の検査と治療法について概要を説明できる.	個人

期末試験	評価方法			
筆記試験		筆記試験	60%	課題の達成度 30%
		受講態度	10%	

【教科書】	なるほどなっとく内科学 改訂3版
【参考書】	特に指定しません.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各授業のテーマについて，要点をまとめる(復習)

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
内科学(2/2)	杉原　敏道	杉原

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

リハビリテーション専門職として身につけるべき知識を得るため，内科的疾患の症候，および検査と治療の基礎を学ぶ.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
① 各疾患の病態の特徴について説明できる. ② 各種疾患の症候について説明できる. ③ 各種疾患の検査と治療について説明できる.	知識・理解

【履修上の注意】 教科書，配布資料を持参すること.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	内分泌疾患 ①	主な内分泌疾患の概要を学ぶ. 内分泌疾患における病態の特徴を説明できる.	個人
2	内分泌疾患 ②	各種内分泌疾患の症候を学ぶ. 内分泌疾患の症候について概要を説明できる.	個人
3	内分泌疾患 ③	各種内分泌疾患の検査と治療法を学ぶ. 内分泌疾患の検査と治療法について概要を説明できる.	個人
4	腎・泌尿器疾患 ①	主な腎・泌尿器疾患の概要を学ぶ. 腎・泌尿器疾患における病態の特徴を説明できる.	個人
5	腎・泌尿器疾患 ②	各種腎・泌尿器疾患の症候を学ぶ. 腎・泌尿器疾患の症候について概要を説明できる.	個人
6	腎・泌尿器疾患 ③	各種腎・泌尿器疾患の検査と治療法を学ぶ. 腎・泌尿器疾患の検査と治療法について概要を説明できる.	個人
7	血液疾患 ①	主な血液疾患の概要を学ぶ. 血液疾患における病態の特徴を説明できる.	個人
8	血液疾患 ②	各種血液疾患の症候を学ぶ. 血液疾患の症候について概要を説明できる.	個人
9	血液疾患 ③	各種血液疾患の検査と治療法を学ぶ. 血液疾患の検査と治療法について概要を説明できる.	個人
10	膠原病・アレルギー疾患 ①	主な膠原病・アレルギー疾患の概要を学ぶ. 膠原病・アレルギー疾患における病態の特徴を説明できる.	個人
11	膠原病・アレルギー疾患 ②	各種膠原病・アレルギー疾患の症候を学ぶ. 膠原病・アレルギー疾患の症候について概要を説明できる.	個人
12	膠原病・アレルギー疾患 ③	各種膠原病・アレルギー疾患の検査と治療法を学ぶ. 膠原病・アレルギー疾患の検査と治療法について説明できる.	個人
13	感染症 ①	主な感染症の概要を学ぶ. 感染症における病態の特徴を説明できる.	個人
14	感染症 ②	各種感染症の症候を学ぶ. 感染症の症候について概要を説明できる.	個人
15	感染症 ③	各種感染症の検査と治療法を学ぶ. 感染症の検査と治療法について概要を説明できる.	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80% 課題の達成度 20%

【教科書】	なるほどなっとく内科学 改訂3版
【参考書】	特に指定しません.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各授業のテーマについて，①教科書を読んでおく(予習)，②要点をまとめる(復習)

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
整形外科学(1/2)	十文字　雄一	十文字

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

整形外科疾患対象者の評価や治療を行う為に必要な運動器疾患の機序を理解し、また整形外科的診断の種類・方法や治療法の理解を深める。

【学習目標(到達目標)】

①筋・骨格系の機能と構造を述べることが出来る。
②整形外科的診察法を具体的に述べることが出来る。
③代表的な整形外科疾患を分類し説明することができる。

【受講して得られる力】
専門職としてのスキル・意識
知識・理解

【履修上の注意】解剖学,生理学,運動学をしっかり復習した上で臨んでください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	骨の構造、生理	骨の構造について理解し、説明ができる	個人
2	骨のリモデリング	骨の修復過程について理解し、説明することができる	個人
3	関節の構造と分類	関節の構造について理解し、説明することができる	個人
4	関節軟骨の構造・機能	関節の構造について理解し、説明することができる	個人
5	骨格筋の分類と構造	骨格筋の構造や、筋線維の分類について説明することができる	個人
6	骨格筋の収縮	筋の収縮について説明することができる	個人
7	神経・痛み	神経系の全体像を説明できる	個人
8	肩関節疾患①	肩関節疾患を理解し、説明することができる	個人
9	肩関節疾患②	肩関節疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる	個人
10	肩関節疾患③	肩関節疾患に対するリハビリテーションを理解し、実施できる	個人
11	肘関節疾患①	肘関節疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる	個人
12	肘関節疾患②	肘関節疾患を理解し、説明することができる	個人
13	肘関節疾患③	肘関節疾患に対するリハビリテーションを理解し、実施できる	個人
14	手関節疾患①	手・手指関節疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる	個人
15	手関節疾患②	手・手指関節疾患を理解し、説明することができる	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%

【教科書】	特になし
【参考書】	標準整形外科学 第15版(医学書院)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書の内容を一読し、キーワード(用語)の説明ができるようにする。

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
整形外科学(2/2)	十文字　雄一	十文字

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

整形外科疾患対象者の評価や治療を行う為に必要な運動器疾患の機序を理解し、また整形外科的診断の種類・方法や治療法の理解を深める。

【学習目標(到達目標)】

①筋・骨格系の機能と構造を述べることが出来る。
②整形外科的診察法を具体的に述べることが出来る。
③代表的な整形外科疾患を分類し説明することができる。

【受講して得られる力】
専門職としてのｽｷﾙ・意識
知識・理解

【履修上の注意】解剖学,生理学,運動学をしっかり復習した上で臨んでください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	股関節疾患①	股関節疾患を理解し、説明することができる	個人
2	股関節疾患②	股関節疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる	個人
3	股関節疾患③	股関節疾患に対するリハビリテーションを理解し、実施できる	個人
4	膝関節疾患①	膝関節疾患を理解し、説明することができる	個人
5	膝関節疾患②	膝関節疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる	個人
6	膝関節疾患③	膝関節疾患に対するリハビリテーションを理解し、実施できる	個人
7	足関節疾患①	足関節疾患を理解し、説明することができる	個人
8	足関節疾患②	足関節疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる	個人
9	足関節疾患③	足関節疾患に対するリハビリテーションを理解し、実施できる	個人
10	脊椎疾患①	脊椎疾患を理解し、説明することができる	個人
11	脊柱疾患②	脊椎疾患に対する診察法や検査法を理解し実施できる	個人
12	脊椎疾患③	脊椎疾患に対するリハビリテーションを理解し、実施できる	個人
13	外傷・スポーツ外傷①	外傷・スポーツ外傷を理解し、説明することができる	個人
14	外傷・スポーツ外傷②	外傷・スポーツ外傷に対する診察法や検査法を理解し実施できる。	個人
15	整形外科疾患　まとめ	整形外科疾患について理解し、説明できる	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　90% 課題の達成度　10%

【教科書】	特になし
【参考書】	標準整形外科学 第15版(医学書院)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書の内容を一読し、キーワード(用語)の説明ができるようにする。

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
神経内科学(1/2)	杉原　敏道	杉原

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

疾患の病態を理解するため，神経内科学の一般的知識を得る.

【学習目標(到達目標)】

① 各疾患の病態の特徴について説明できる.
② 各種疾患の症候について説明できる.
③ 各種疾患の検査と治療について説明できる.

【受講して得られる力】

知識・理解

【履修上の注意】 教科書，配布資料を持参すること.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	運動麻痺，錐体路徴候，筋萎縮	随意運動の障害について学ぶ. 錐体路徴候について説明できる.	個人
2	錐体外路徴候，不随意運動	錐体外路徴候について学ぶ. 錐体外路徴候について説明できる.	個人
3	神経学的検査法	X線検査，CT検査，MRI検査について学ぶ. 各種検査の目的と意義を説明できる.	個人
4	神経学的検査法	脳血管撮影，脳循環などの検査について学ぶ. 各種検査の目的と意義を説明できる.	個人
5	運動失調	運動失調について学ぶ. 小脳性運動失調の症状と検査法について説明できる.	個人
6	感覚障害	感覚障害について学ぶ. 感覚障害の原因疾患と分布の特徴が説明できる.	個人
7	神経学的検査法・意識障害，脳死，植物状態	神経学的検査法における各疾患の診断上の意義を学ぶ. 意識障害，脳死，植物状態の病態について説明できる.	個人
8	頭痛，めまい，失神・脳神経外科領域の疾患	頭痛，めまい，失神をきたす疾患と病態について学ぶ. 脳神経外科領域の疾患にみられる病態と症状について説明できる.	個人
9	記憶障害	記憶の種類とメカニズム，および検査法について学ぶ. 記憶の種類とメカニズムについて説明し，検査法を列挙できる.	個人
10	注意障害	注意の要素とその障害の臨床症状，検査法について学ぶ. 注意の要素と障害の臨床症状を説明し，検査法を列挙できる.	個人
11	脳血管障害　①	脳卒中の病態，治療について学ぶ. 脳卒中の病態，治療について説明できる.	個人
12	脳血管障害　②	脳卒中の病態，治療について学ぶ. 脳卒中の病態，治療について説明できる.	個人
13	脊髄疾患の理学療法	脊髄損傷者の評価と理学療法について学ぶ. 疾患の特徴，評価項目，高位判定法，機能分類を説明できる.	個人
14	脳腫瘍，外傷性能損傷	脳腫瘍の種類と特徴について学ぶ. 脳腫瘍の種類と特徴について説明できる.	個人
15	脊髄疾患	脊椎・脊髄疾患について学ぶ. 脊椎・脊髄疾患について説明できる.	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　90%	受講態度　10%

【教科書】	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第6版 （医学書院）
【参考書】	特に指定しない.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 不明な点を翌日に持ち越さない姿勢で学習すること.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
神経内科学(2/2)	杉原　敏道	杉原

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

疾患の病態を理解するため，神経内科学の一般的知識を得る.

【学習目標(到達目標)】

① 各疾患の病態の特徴について説明できる.
② 各種疾患の症候について説明できる.
③ 各種疾患の検査と治療について説明できる.

【受講して得られる力】

知識・理解

【履修上の注意】 教科書，配布資料を持参すること.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	記憶・注意障害の評価とリハ	記憶・注意障害の検査およびリハについて学ぶ. 各障害の主な検査法とリハについて説明できる.	個人
2	末梢神経疾患・てんかん	末梢神経疾患・てんかんの病態について学ぶ. 末梢神経疾患・てんかんの病態を説明できる.	個人
3	感染性疾患，廃用症候群と誤用症候群	各種中枢神経感染症の特徴と治療について学ぶ. リハにおける合併症について病態を理解する.	個人
4	末梢神経障害と理学療法	代表的な末梢性ニューロパチーについて学ぶ. 末梢性ニューロパチーの症状と治療について説明できる.	個人
5	神経疾患に多い合併症と理学療法	リハビリテーションにおける合併症について学ぶ. 廃用症候群と誤用症候群の病態と予防法を説明できる.	個人
6	失認の評価とリハ	失認の評価とリハについて学ぶ. 失認の評価とリハについて説明できる.	個人
7	認知症	アルツハイマー型認知症をはじめとする各認知症について学ぶ. 各認知症の病態を説明できる.	個人
8	変性疾患・脱髄疾患	変性疾患・脱髄疾患の病態と症状について学ぶ. 各疾患の病態と症状について説明できる.	個人
9	変性疾患，脱髄疾患と理学療法	変性疾患と脱髄疾患の症状とリハについて学ぶ. 代表的な疾患の症状とリハについて説明できる.	個人
10	失行・実行機能障害の評価とリハ	失行，実行機能障害の評価とリハについて学ぶ. 失行，実行機能障害の評価とリハについて説明できる.	個人
11	錐体外路の変性疾患　①	パーキンソン病の病態と治療について学ぶ. 疾患の病態と治療について説明できる.	個人
12	錐体外路の変性疾患　②	パーキンソニズムを来す疾患について学ぶ. 各不随意運動の特徴とメカニズムについて説明できる.	個人
13	錐体外路の変性疾患と理学療法	パーキンソン病の評価と理学療法について学ぶ. 疾患の評価と理学療法およびその目的について説明できる.	個人
14	筋疾患	筋ジストロフィーなどの筋疾患の病態について学ぶ. 筋疾患の病態について説明できる.	個人
15	中毒性疾患，栄養欠乏により神経疾患， 小児神経疾患，排尿疾患	中毒，栄養欠乏に伴う神経疾患，小児神経疾患について学ぶ. 各疾患の病態について説明できる.	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　90%	受講態度　10%

【教科書】	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第6版 （医学書院）
【参考書】	特に指定しない.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 不明な点を翌日に持ち越さない姿勢で学習すること.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
精神医学	羽川　孝幸	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

五大疾病のなかで精神疾患はもっとも罹患者が多く、臨床現場で当事者を必ず受け持つことになるため、精神医学の正しい知識を身につけることが欠かせない。総論では歴史や症候学、診断学について概説する。各論では、個々の疾患の症状や治療について解説する。

【学習目標(到達目標)】

①総論として、精神医学の歴史、症候学、診断学について理解し、説明できる。
②各論として、個々の精神疾患について疫学や症状、治療について理解し、説明できる。
③リハビリテーションを実施するうえで、精神疾患に配慮した関わりを理解し、説明できる。
④精神疾患にまつわる社会のスティグマ(偏見)について、正しい知識のもと解決のため取り組める。
⑤

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
統合的学習体験

【履修上の注意】分からない点は講義内で質問し、予習・復習を含め主体的な学習をすること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション・精神医学総論(1) pp.14～34	精神医学について歴史を踏まえて理解する PT、OTになぜ精神医学が重要なのか理解する	個人
2	精神医学総論(2) pp.35～65	精神科診断学・精神症候学について理解する 面接や評価の方法を理解する	個人
3	器質性・症状性精神障害 pp.66～87	代表的な認知症の4分類について理解する てんかんの病態、発作の分類について理解する	個人
4	精神作用物質使用による精神および行動の障害 pp.88～99	精神作用物質の影響について理解する 依存と離脱について理解する	個人
5	統合失調症および関連疾患① pp.100～113	陽性症状と陰性症状について説明できる 統合失調症の治療について理解できる	個人
6	統合失調症および関連疾患② pp.100～113	陽性症状と陰性症状について説明できる 統合失調症の治療について理解できる	個人
7	気分障害(うつ病・双極性障害) pp.114～127	うつ病の症状について理解する 双極性障害のそう状態について理解する	個人
8	神経症性障害、ストレス関連障害①および身体表現性障害 pp.128～141	神経症性障害の各疾患について理解する ストレス関連障害の身体への影響について理解する	個人
9	神経症性障害、ストレス関連障害②および身体表現性障害 pp.128～141	神経症性障害の各疾患について理解する ストレス関連障害の身体への影響について理解する	個人
10	生理的障害および身体的要因に関連した行動障害 pp.142～152	神経性無食欲症と神経性過食症について理解する 睡眠覚醒障害について理解する	個人
11	パーソナリティ障害と行動の障害 pp.153～159	気質、性格、人格の違いについて理解する パーソナリティ障害の種類と特徴を理解する	個人
12	児童青年期の精神障害 pp.160～172	知的障害の特徴について理解する 自閉症スペクトラム、ADHD、学習障害について理解する	個人
13	精神疾患の治療 pp.190～208	精神療法と身体療法について理解する 向精神薬の種類と作用について理解する	個人
14	精神科リハビリテーションと関連法規 pp.209～228	精神科リハビリテーションについて説明できる 精神保健福祉法と医療観察法の概要を理解する	個人
15	講義のまとめ		個人
期末試験	前期期末試験	評価方法：筆記試験 100%	

【教科書】	PT・OTビジュアルテキスト専門基礎　精神医学(羊土社)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】シラバスに記載されているページを必ず読み参加すること

【本講義に関しての質問先】担当教員　【質問方法】教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
小児科学 ※ 実務経験のある教員の授業科目	笹島　美沙希 障がい児入所施設・重症児通所支援事業所（理学療法士）6年	笹島

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

人間の発達の過程を踏まえ，小児期における代表的な疾患や障害の特性，理学療法の基本的な考え方について理解する．

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①発達段階と理学療法の関連性について概要を理解する． ②主な疾患および障害の特徴を理解する． ③主な疾患や障害に対する理学療法士の関わり方を理解する．	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 情報活用能力

【履修上の注意】　特になし

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	初回オリエンテーション	発達系理学療法の対象について理解する． 療育における理学療法士の役割について理解する．	個人
2	発達総論	運動発達に関する用語，運動発達理論を理解する． 理学療法における発達的視点について理解する．	個人
3	新生児疾患①	新生児に関する用語，新生児の分類を理解する． 新生児の身体的特徴について理解する．	個人
4	新生児疾患②	ハイリスク新生児の定義，その要因について理解する． 新生児に多い疾患について理解する．	個人
5	脳性麻痺	脳性麻痺の概念，疫学，障害特性を理解する． 理学療法士の関わり方を説明できる．	個人
6	重症心身障害児	重症心身障害児の概念，障害特性を理解する． 理学療法士の関わり方を説明できる．	個人
7	遺伝性疾患	21トリソミーを中心に，遺伝性疾患の定義・成因・ 分類などについて理解する．	個人
8	神経・筋疾患	筋ジストロフィー症を中心に， 神経・筋疾患の病態について理解する．	個人
9	確認テスト	前半部分の確認テストを行う．	個人
10	呼吸器疾患	小児の呼吸器疾患の病態を理解する． 理学療法士の関わり方を説明できる．	個人
11	循環器疾患	小児の循環器疾患の病態を理解する． 理学療法士の関わり方を説明できる．	個人
12	血液・造血器疾患	小児の血液・造血器疾患の病態を理解する． 理学療法士の関わり方を説明できる．	個人
13	整形疾患①	二分脊椎の概念，疫学，障害特性を理解する． 理学療法士の関わり方を説明できる．	個人
14	整形疾患②	ペルテス病およびその他の整形疾患の病態を理解する． 理学療法士の関わり方を説明できる．	個人
15	まとめ	各疾患の病態，理学療法士の関わり方について， 総復習を行う．	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	指定なし．配布する資料を使用する．
【参考書】	講義の中で適宜紹介します．

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　授業で説明した要点をよく復習しておいてください．

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
老年学 ※ 実務経験のある教員の授業科目	白土　貴紀 病院（理学療法士）7年、在宅（理学療法士）7年勤務	白土

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

老年医学，高齢者医療について学び，高齢者リハビリテーションに求められる考え方を理解する.

【学習目標（到達目標）】

① ヒトの生理・運動・精神機能の加齢変化について説明できる.
② 高齢者の特徴的な症候と疾患について説明できる.
③ 高齢者に対する総合的（医学・社会学・経済学的）なアプローチについて説明できる.

【受講して得られる力】

知識・理解

【履修上の注意】 教科書，配布資料を持参すること.

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	老化と老年病	老化と高齢者の疾患について学ぶ. 老化と高齢者の疾患の特徴について説明できる.	個人
2	加齢に伴う変化	生理・運動・精神機能の加齢変化について学ぶ. 生理・運動・精神機能の加齢変化について説明できる.	個人
3	高齢者の機能評価	高齢者の総合的機能評価について学ぶ. 高齢者の機能評価や栄養状態の評価について説明できる.	個人
4	高齢者に特有な症候	高齢者に多い症候と老年症候群について学ぶ. 高齢者に多い症候と老年症候群について説明できる.	個人
5	運動器疾患	骨粗鬆症と高齢者の運動器疾患について学ぶ. 骨粗鬆症と高齢者の運動器疾患の特徴について説明できる.	個人
6	神経疾患	高齢者の神経疾患について学ぶ. 高齢者の神経疾患および老化との関連について説明できる.	個人
7	精神疾患	高齢者の精神疾患について学ぶ. 認知症と高齢者の精神疾患の特徴について説明できる.	個人
8	循環器疾患	高齢者の循環器疾患について学ぶ. 高齢者の循環器疾患の特徴について説明できる.	個人
9	呼吸器疾患	高齢者の呼吸器疾患について学ぶ. 高齢者の呼吸器疾患の特徴について説明できる.	個人
10	消化器疾患	高齢者の消化器疾患について学ぶ. 高齢者の消化器疾患の特徴について説明できる.	個人
11	内分泌疾患	高齢者の内分泌疾患について学ぶ. 高齢者の糖尿病と内分泌疾患の特徴について説明できる.	個人
12	血液・免疫疾患	高齢者の血液・免疫疾患について学ぶ. 高齢者の血液・免疫疾患の特徴について説明できる.	個人
13	腎・泌尿器疾患	高齢者の腎・泌尿器疾患について学ぶ. 高齢者の腎・泌尿器疾患の特徴について説明できる.	個人
14	皮膚・耳鼻咽喉・眼疾患，感染症	高齢者の皮膚・耳鼻咽喉・眼疾患および感染症について学ぶ. 高齢者の皮膚・耳鼻咽喉・眼疾患および感染症の特徴を説明できる.	個人
15	高齢者をとりまく環境	高齢者の環境を踏まえ，そのリハビリテーションについて学ぶ. 高齢者の医療・看護・介護・福祉・保健・リハについて説明できる.	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 70%	小テスト 30%

【教科書】	特に指定しない．参考になるものがあれば、その都度紹介する
【参考書】	標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野　老年学 第5版 （医学書院）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各授業のテーマについて，配布資料、講義内容の復習を実施して下さい。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
薬理学	田崎 政則	樫村

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

内科的治療の柱である「薬物療法」についての基礎的知識を学ぶ
臨床でよく用いられる代表的薬物の薬理作用を理解する

【学習目標(到達目標)】

①臨床でよく用いられる薬物の種類とその特性がわかる
②体内における薬物動態が理解できる
③薬物による生体反応のしくみと薬物の作用機序が理解できる

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
論理的思考力

【履修上の注意】 教科書を持参して下さい

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	薬理学の基礎知識①	薬理学の概要と、薬に関する法令について理解し、説明できるようになる。	個人
2	薬理学の基礎知識②	薬物の作用と、その効果に影響を及ぼす要因について理解する。	個人
3	薬理学の基礎知識③	薬物の適用と、薬物体内動態について理解する。	個人
4	薬理学の基礎知識④	薬物の副作用について理解する。	個人
5	薬理学の基礎知識⑤	医薬品の処方箋、剤形、取扱い、計量、新薬、ジェネリック薬についての知識も修得する。	個人
6	末梢神経作用薬	末梢神経作用薬について学ぶ。	個人
7	中枢神経作用薬	中枢神経作用薬について学ぶ。	個人
8	心臓血管系・血液造血系作用薬	心臓血管系・血液造血系作用薬について学ぶ。	個人
9	呼吸器系・消化器系作用薬	呼吸器系・消化器系作用薬について学ぶ。	個人
10	物質代謝作用薬	物質代謝作用薬について学ぶ。	個人
11	生殖器系作用薬・オータコイド	生殖器系作用薬・オータコイドについて学ぶ。	個人
12	抗感染症薬・抗悪性腫瘍薬・漢方	抗感染症薬・抗悪性腫瘍薬・漢方について学ぶ。	個人
13	生物学的製剤・診断用薬、薬物中毒	生物学的製剤・診断用薬および薬物中毒について学ぶ。	個人
14	国家試験対策	過去の国家試験問題から病態および薬理学系の問題を抽出し解説する。	個人
15	内容のまとめ	これまでの内容を振り返り、理解を深める。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 100%

【教科書】	薬理学　疾病のなりたちと回復の促進③　系統看護学講座　専門分野(医学書院)
【参考書】	特に指定しない.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 教科書を参考に予習復習に励んでください

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

専門分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
理学療法学特論	樫村　孝憲	樫村

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

がんのリハビリテーション、神経・筋疾患、皮膚障害、ウイメンズ・ヘルスの概要と理学療法に必要な知識と思考・判断過程ついて学習する。

【学習目標(到達目標)】

①がん治療の原則とリスク管理について説明することができる。
②がんのリハビリテーションの必要性について説明することができる。
③神経・筋疾患・皮膚障害についてそれぞれの特徴を説明することができる。
④ウィメンズヘルス・メンズヘルスについての概要を説明することができる。

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのスキル・意識

【履修上の注意】解剖学・生理学をしっかり復習して臨んで下さい

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	科目のオリエンテーション	この科目の概要を理解する。	個人
2	がんの総論1	がんの基礎について理解する。 基礎・治療・臨床検査・生命予後の予測について学ぶ。	個人
3	がんの総論2	がん患者の疼痛管理について理解する。 がん患者の疼痛管理について学ぶ。	個人
4	リスク管理1	がん患者のリスク管理について理解する。 がん患者のリスクについて学ぶ。	個人
5	リスク管理2	がんに伴う合併症・治療による副作用について理解する。 がんに伴う合併症・治療による副作用について学ぶ。	個人
6	がん患者の評価方法	がん患者の評価方法について理解する。 がん患者の評価方法について学ぶ。	個人
7	在宅患者・終末期	在宅患者への対応・終末期の対応について理解する。 在宅患者への対応・終末期の対応について学ぶ。	個人
8	まとめ	がんに患者に対するリハビリテーションについて復習する。	個人
9	理学療法1	呼吸リハビリテーション・嚥下障害・構音障害・発声障害への対応について理解する。術前・術後の理学療法について学ぶ。	個人
10	理学療法2	肩関節可動域制限・リンパ浮腫の理学療法について理解する。 術前・術後の理学療法について学ぶ。	個人
11	ウィメンズヘルス	Women's Health(ウィメンズヘルス)について理解する。	個人
12	ウィメンズヘルス	女性のための健康支援と女性特有の疾患について学ぶ。	個人
13	メンズヘルス	Men's Health(メンズヘルス)について理解する。	個人
14	メンズヘルス	男性のための健康支援と男性特有の疾患について学ぶ。	個人
15	まとめ	様々な疾患と理学療法士の関わりについて復習する	個人・グループ

期末試験	後期末試験	評価方法	小テスト 40% 筆記試験 10%

【教科書】	特に指定しない．参考になるものがあれば、その都度紹介する
【参考書】	がんリハビリテーション実践マニュアル （メジカルビュー社）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】配布資料、講義内容の復習。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
理学療法演習Ⅱ ※ 実務経験のある教員の授業科目	十文字　雄一 病院（理学療法士）10年勤務	十文字

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	後期	15(30)	講義・演習	1

【授業の概要・目的】

理学療法士に必要なコミュニケーションスキルや協調性について学び、また、郡山市障害者福祉センターで行われる健康運動教室に参加し、利用者に喜んでいただくことで理学療法士のやりがいを感じるとる。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①ワークを通し、自分の長所・やりがい等を明確にし健康運動教室目標を見つけることができる ②ワークを通し、コミュニケーションスキルと手法について理解することができる。 ③健康運動教室に参加し、運動の説明、実施をすることができる。	専門職としてのｽｷﾙ・意識 コミュンケーションスキル 態度・志向性 創造的思考力

【履修上の注意】動きやすい服装で授業に参加して下さい

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	健康運動教室オリエンテーション	健康運動教室の学習目標・意義を理解し、グループ・個人の目標を明確にする	個人・グループ
2	運動処方について	運動処方の基準を学習し、理解する	個人・グループ
3	血圧の測定	血圧の測定の意味を理解し、正確に測定ができる	個人・グループ
4 5	自分と向き合うワーク アイスブレイク	ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。	個人・グループ
6	他者を理解するワーク	ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。	個人・グループ
7	健康運動教室事前準備	各グループに分かれ、実施内容を確認した上で役割分担を行う	グループ
8		自分の役割を理解し、責任をもって行動することができる	
9 10	健康運動教室①	郡山市障害者福祉センターで健康運動教室に参加し、利用者に対して目的に合わせた運動を実施できる	グループ
11 12	健康運動教室発表準備	自分の役割を理解し、責任をもって行動することができる	グループ
13 14	健康運動教室発表①	グループ毎にグループワークの結果を発表し、その内容に対して質疑応答を行う	グループ
15	健康運動教室発表②実演	1年生の前で実演し、ポイントを押さえて運動を説明できる	グループ

期末試験	評価方法		
実施しない	発表会の結果	60%	授業への貢献 40%

【教科書】	特に指定なし
【参考書】	特に指定なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】運動処方について復習をする

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
検査・測定演習(1/3) ※ 実務経験のある教員の授業科目	樫村　孝憲 病院(理学療法士)14年勤務	樫村

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	45(90)	講義・演習	3

【授業の概要・目的】

理学療法評価を実施するにあたり必要な検査測定技術を身につける
また、それぞれの検査・測定を行う意義について理解する

【学習目標(到達目標)】

①健常者を対象にバイタルサインの測定を適切に行うことができる
②健常者を対象に形態計測を行うことができる
③健常者を対象に関節可動域検査を行うことができる

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
態度・志向性
統合的学習体験

【履修上の注意】 実習着を着用する

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1 2	バイタルサインの評価	意識レベルの判定、血圧、脈拍、呼吸、体温、経費的酸素飽和度の測定方法を習得する キーワード:JCS、GCS、体表から触知できる動脈、異常な呼吸状態、血圧の正常値など	グループ
3 4	形態計測	形態計測の意義、目的、方法を習得する 四肢長、肢節長、周径の技能を習得する 形態の異常について考察できる キーワード:身長、体重、四肢長、肢節長、周径	グループ
5 6	確認テスト	バイタルサイン及び形態計測の技能に関して確認テストを行い、習熟度を確認する	グループ
7 8 9 10 11 12 13 14	関節可動域検査	関節可動域検査の定義・目的を理解する 関節可動域の正常値を理解する 関節可動域の測定法を習得する 講義形式で解説した後、学生同士で演習を行う キーワード:基本肢位と解剖学的肢位、開始肢位、関節の運動方向、角度計、日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会による「関節可動域表示ならびに測定法」	グループ
15	確認テスト	関節可動域の技能に関して確認テストを行い、習熟度を確認する	個人

期末試験	評価方法		
実施しない	実技試験	80%	
	受講態度	20%	

【教科書】	標準理学療法学専門分野　理学療法評価学 第4版 (医学書院)
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 解剖学、運動学の復習、骨の名称や運動方向を理解する

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
検査・測定演習(2/3) ※ 実務経験のある教員の授業科目	樫村　孝憲 病院(理学療法士)14年勤務	樫村

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	45(90)	講義・演習	3

【授業の概要・目的】

理学療法評価を実施するにあたり必要な検査・測定技術を身につける.
また, それぞれの検査・測定を行う意義について理解する.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①徒手筋力検査の目的を理解し, 説明できる.	知識・理解
②健常者を対象に, 徒手筋力検査を正確に実施できる.	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③代償運動について理解し, 代償運動を抑制できる.	情報活用能力
④徒手筋力検査の結果を正確に記載し, 解釈ができる.	情報活用能力

【履修上の注意】 必ず実習着を着用して参加してください.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	初回オリエンテーション	徒手筋力検査法の概要について理解する.	グループ
2	筋力検査(下肢:股関節)	股関節周囲の筋に対する検査を実施できる.	グループ
3	筋力検査(下肢:股関節)	股関節周囲の筋に対する検査を実施できる.	グループ
4	筋力検査(下肢:膝関節)	膝関節周囲の筋に対する検査を実施できる.	グループ
5	筋力検査(下肢:足関節～足部)	足関節周囲, 足部の筋に対する検査を実施できる.	グループ
6	筋力検査(上肢:肩関節)	肩関節周囲の筋に対する検査を実施できる.	グループ
7	筋力検査(上肢:肩関節)	肩関節周囲の筋に対する検査を実施できる.	グループ
8	筋力検査(上肢:肘関節)	肘関節周囲の筋に対する検査を実施できる.	グループ
9	筋力検査(上肢:手関節～手部)	手関節・手部関節周囲の筋に対する検査を実施できる.	グループ
10	筋力検査(上肢:手指)	手指関節周囲の筋に対する検査を実施できる.	グループ
11	筋力検査(体幹)	体幹周囲の筋に対する検査を実施できる.	グループ
12	筋力検査(頸部)	頸部周囲の筋に対する検査を実施できる.	グループ
13	脳神経支配筋の検査	脳神経支配筋の筋に対する検査を実施できる.	グループ
14	実技試験	徒手筋力検査の確認を行い, 正確な技術を身につける.	グループ
15	実技試験	徒手筋力検査の確認を行い, 正確な技術を身につける.	グループ

期末試験	実施しない	評価方法	実技試験 80% 受講態度 20%

【教科書】	標準理学療法学専門分野 理学療法評価学 第4版 (医学書院出版) 新・徒手筋力検査法　原著第10版(協同医書出版)
【参考書】	特になし.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 技術習得のため, 適宜自主練習も実施してください.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
検査・測定演習(3/3) ※ 実務経験のある教員の授業科目		樫村 孝憲 病院(理学療法士)14年勤務			樫村
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	45(90)	講義・演習	3

【授業の概要・目的】

理学療法評価を実施するにあたり必要な検査・測定技術を身につける
各種検査・測定を行う目的を理解する

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①対象者を想定し、各種検査方法の目的を説明できる	知識・理解
②対象者を想定し、各種検査を実施できる	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③道具を適切に使用し、安全に検査を実施することができる	情報活用能力
④各種疾患の病態を踏まえながら検査を実施することができる	態度・志向性

【履修上の注意】 授業に適した服装で受講するようにしてください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	一般評価事項	医学的情報の収集と状態観察の方法を習得する	グループ
2	一般評価事項	血液,尿など生化学検査の目的や基準を理解する 全身状態の把握とリスク管理の方法を習得する	グループ
3	深部腱反射	深部腱反射について理解する 代表的な深部腱反射の検査方法を習得する	グループ
4	病的反射・表在反射	表在反射・病的反射について理解する 代表的な反射検査を習得する	グループ
5	筋緊張検査	筋緊張のメカニズムを理解し,説明できる Modified Ashworth Scale(MAS)を説明し実施できる	グループ
6	バランス検査	静的バランス・動的バランス・運動戦略について説明できる Romberg試験,Mann試験,片脚立位検査を実施できる	グループ
7	バランス検査	Functional Reach Test,Time up and go testを実施できる	グループ
8	確認テスト①	反射検査,筋緊張検査、バランス検査の習熟度を確認する	グループ
9	姿勢反射	姿勢反射について理解し説明できる 検査方法や評価の意義を説明できる	グループ
10	協調性検査	協調運動や協調運動障害について説明できる 代表的な協調性検査を実施できる	グループ
11	脳神経検査	脳神経の機能を理解できる 各脳神経に対して検査を実施できる	グループ
12	高次脳検査	高次脳機能・高次脳機能障害について理解できる 代表的な検査を実施できる	グループ
13	片麻痺機能検査	連合反応と共同運動を理解できる Brunnstrom Stageの概要を理解できる	グループ
14	片麻痺機能検査	検査を実施しBrunnstrom Stageを判別できる	グループ
15	確認テスト②	協調性検査や脳神経検査、高次脳機能検査、片麻痺機能検査の習熟度を確認する	グループ

期末試験	実施しない	評価方法	実技試験 80% 受講態度 20%

【教科書】	標準理学療法学専門分野 理学療法評価学 第4版(医学書院)
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 空き時間を有効に使い、検査方法の確認や手技の復習を行いましょう。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
義肢・装具学(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	佐久間　朋子 大学病院等(理学療法士)14年勤務	佐久間

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

切断について理解する。切断の理学療法について理解する。各種義肢・装具について理解する。義肢装具の適応・チェックアウトを理解する。義肢や装具のバイオメカニクスを理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①切断・義肢について理解できる ②切断者への理学療法について理解できる ③各種義肢について理解できる ④義肢のチェックアウトについて理解できる	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】	教科書を持参して下さい、小テストを実施しますので復習に努めて下さい

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	義肢学総論(切断と義肢)	切断の原因や疫学、切断術、義肢について理解する 義肢の支給体系について理解する	個人
2	下肢切断と理学療法評価	下肢切断術後の理学療法評価について理解する	個人
3	大腿義足ソケットの種類と適合評価	大腿切断の特徴について理解する 大腿義足のソケットの種類や適合評価について理解する	個人
4	膝義足ソケットの種類と適合評価	膝離断の特徴について理解する 膝義足のソケットの種類や適合評価について理解する	個人
5	大腿義足・膝義足アライメント	大腿義足・膝義足のベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント、異常歩行について理解する	個人
6	下腿義足ソケットの種類と適合評価	下腿切断の特徴について理解する 下腿義足のソケットの種類や適合評価について理解する	個人
7	サイム義足ソケットの種類と適合評価	サイム切断の特徴を理解する サイム義足のソケットの種類や適合評価について理解する	個人
8	下腿義足・サイム義足アライメント	下腿義足・サイム義足のベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント、異常歩行について理解する	個人
9	股義足ソケットの種類	股離断の特徴について理解する 股義足の種類やソケットについて理解する	個人
10	股義足のアライメント	股義足のベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメントについて理解する	個人
11	足部部分義足の種類と適合評価	下肢切断者の理学療法プログラムを理解する 理学療法の役割とチームアプローチについて理解する	個人
12	継手・足部	継手・足部の種類とメカニズムについて理解する	個人
13	下肢切断者に対する理学療法	断端管理の種類と方法、拘縮予防について理解する 義足歩行およびADL練習について理解する	個人
14	症例検討	症例を通し、切断術後の理学療法評価やリハビリテーション、義肢の作製の流れについて理解する	個人
15	上肢切断	上肢切断の特徴を理解する 義手の種類を理解する	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	PTOTビジュアルテキスト　義肢装具学 第2版　（羊土社）
【参考書】	参考になるものがあれば、その都度紹介する

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	教科書や配布資料の復習をしっかり行ってください

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
義肢・装具学(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		佐久間　朋子 病院(理学療法士)14年勤務			佐久間
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

装具の基本的な構造、種類、名称を理解し、各種装具の適応とチェックアウトを理解できることを目的とする.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①装具作成までの一連の流れを理解できる ②各種装具の名称・基本構造・特徴・チェックアウトを説明できる ③各疾患に対する装具の適応と特徴を説明できる	知識・理解 考え抜く力 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】授業中に小テストを行います. 自己学習に努めてください.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	装具学総論	装具の基本原則について説明できる	個人
2	下肢装具の構成部品と そのチェックアウト	下肢装具の基本的構造と各種部品について説明できる	個人
3	下肢装具の構成部品と そのチェックアウト	下肢装具の基本的構造と各種部品について説明できる	個人
4	下肢装具の構成部品と そのチェックアウト	下肢装具の基本的構造と各種部品について説明できる	個人
5	足継手の制御機構	足継手の種類と機構・機能がわかる	個人
6	疾患別装具療法① 脳卒中片麻痺の装具	脳卒中片麻痺用の装具の名称と適応、特徴についてわか	個人
7	疾患別装具療法② 対麻痺の装具	対麻痺用の装具の名称と適応、特徴についてわかる	個人
8	疾患別装具療法③ 整形外科的装具	整形外科的装具の名称と適応、特徴についてわかる	個人
9	疾患別装具療法④ 頸椎・胸腰椎疾患の装具	頸椎・胸腰椎疾患の装具の名称と適応、特徴についてわか	個人
10	疾患別装具療法⑤ 末梢神経障害の装具	末梢神経障害の装具の名称と適応、特徴についてわかる	個人
11	疾患別装具療法⑥ 脊柱側弯症の装具	脊柱側弯症の装具の名称と適応、特徴についてわかる	個人
12	疾患別装具療法⑦ 小児疾患の装具	小児疾患の装具の名称と適応、特徴についてわかる	個人
13	疾患別装具療法⑧ 関節リウマチの装具	関節リウマチの装具の名称と適応、特徴についてわかる	個人
14	靴型装具	靴型装具の構造と名称、適応についてわかる	個人
15	車椅子・杖	車椅子・杖の構造と名称、採寸方法についてわかる	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版　異常とその対応がわかる動画付き （羊土社）
【参考書】	特に指定しない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	授業で学んだ装具種類と名称についての復習を行う		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
日常生活技術論 ※ 実務経験のある教員の授業科目	増子 就斗 病院(理学療法士)10年勤務	増子

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

対象者の生活像を把握する為に日常生活活動(ADL)の概念や範囲を理解し、必要な評価とその方法を身につけます。

【学習目標(到達目標)】
①疾患のADL動作の特徴を説明することができる。
②ADL動作の指導、介助方法を説明することができる。

【受講して得られる力】
知識・理解
考え抜く力
専門職としてのｽｷﾙ・意識
情報活用能力

【履修上の注意】教科書を持参して下さい。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション ADLの概念と範囲	講義の流れやポイントを理解できる 理学療法士によるADLの定義を理解できる	グループ
2	ADLの概念と範囲	理学療法士によるADLの定義を理解できる	グループ
3	ADLと障がい	障がいの捉え方を理解できる 障がいとADLの関連性を理解できる	グループ
4	ADLとQOL	QOLについて理解することができる QOLについて評価する方法を理解できる	グループ
5	ADLの運動学的分析	身体の動きと運動学の関連性を理解できる	グループ
6	ADL評価	代表的なADL評価法を理解する	グループ
7	ADL評価の実際 バーセルインデックス	ADL評価の方法について理解する バーセルインデックスを用いて採点することができる	グループ
8	ADL評価の実際 FIM	ADL評価の方法について理解する FIMを用いて採点することができる	グループ
9	ADLの実際 脳卒中	脳卒中の病態を理解する 脳卒中に対するADL評価と指導の計画を立てることができる	グループ
10	ADLの実際 脊髄損傷	脊髄損傷の病態を理解する 脊髄損傷に対するADL評価と指導のポイントを理解できる	グループ
11	ADLの実際 神経筋疾患	神経筋疾患の病態を理解する 疾患に応じたADL評価のポイントを理解できる	グループ
12	ADLの実際 関節リウマチ	関節リウマチの病態を理解する 関節リウマチに対するADL指導のポイントを理解できる	グループ
13	ADLの実際 人工骨頭置換術	人工骨頭置換術後の病態を理解する 人工骨頭置換術後に対する理学療法評価ができる	グループ
14	ADLの実際 下肢切断	下肢切断後の病態を理解する 下肢切断後に対する生活活動管理やADL管理ができる	グループ
15	ADLの実際 呼吸器疾患	呼吸器疾患・循環器疾患の病態を理解する 呼吸器疾患・循環器疾患に対するADL評価が理解できる	グループ

期末試験	期末試験	評価方法	筆記試験 70%	受講態度 10%
			小テスト 20%	

【教科書】	標準理学療法学専門分野　日常生活活動学・生活環境学　第7版　(医学書院) 脳卒中の機能評価　SIASとFIM[基礎編](金原出版)
【参考書】	講義で紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	基礎科目の知識を活用しますので、不足している部分については十分復習しましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
神経系理学療法学Ⅰ(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	増子 就斗 病院(理学療法士)10年勤務	増子

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

中枢神経系で代表的な脳卒中と脊髄損傷の病態について学び、基礎的な知識を定着することができる。
各疾患の評価方法や治療方法について理解を深めることができる。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①中枢神経系の構造と機能について理解を深める ②各種疾患の病態について理解を深める ③各種疾患に応じた理学療法評価、治療方法について理解を深める	知識・理解 論理的思考力

【履修上の注意】教科書や参考書を必ず持参して臨むようにしましょう.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	中枢神経系の構造と機能(1)	中枢神経系と末梢神経系の構造と機能を理解する 神経系の違いや各種伝導路を説明できる	個人
2	中枢神経系の構造と機能(2)	中枢神経系と末梢神経系の構造と機能を理解する 神経系の違いや各種伝導路を説明できる	個人
3	脳卒中の発症および回復メカニズム	脳卒中の発症メカニズムと神経の可塑性を理解する 発症メカニズムと機能回復機序を説明できる	個人
4	脳画像と臨床症状(1)	脳画像と臨床症状について理解する CT・MRIの特徴を理解できる	個人
5	脳画像と臨床症状(2)	各種障害と病巣と理解する	個人
6	脳卒中患者に対する評価とアプローチ	脳卒中患者の理学療法評価とアプローチを理解する 脳卒中に対する評価の目的や代表的な評価を説明できる	個人
7	脳卒中の障害と理学療法 各論(1) 運動麻痺	脳卒中患者の運動麻痺を理解する 運動麻痺のメカニズムや神経機構を説明できる	個人
8	脳卒中の障害と理学療法 各論(2) 感覚障害	脳卒中患者の感覚障害を理解する 感覚障害のメカニズムや神経機構を説明できる	個人
9	脳卒中の障害と理学療法 各論(3) 異常筋緊張	脳卒中患者の異常筋緊張を理解する 異常筋緊張のメカニズムや神経機構を説明できる	個人
10	脳卒中の障害と理学療法 各論(4) 運動失調	脳卒中患者の運動失調を理解する 運動失調のメカニズムや神経機構を説明できる	個人
11	脳卒中の障害と理学療法 各論(5) 二次的機能障害	脳卒中患者の二次的機能障害,姿勢バランス障害を理解する バランス障害のメカニズムや神経機構を説明できる	個人
12	脳卒中の障害と理学療法 各論(6) 運動の高次脳機能障害	脳卒中患者の高次脳機能障害を理解する 失行,注意・遂行機能障害の病態と神経機構を説明できる	個人
13	脳卒中の障害と理学療法 各論(7) 感覚の高次脳機能障害	脳卒中患者の高次脳機能障害を理解する 失認,半側空間無視の病態と神経機構を説明できる	個人
14	脳卒中の障害と理学療法 各論(8) その他の高次脳機能障害	脳卒中患者の高次脳機能障害を理解する 失語症,認知症の病態と神経機構を説明できる	個人
15	講義のまとめ	脳卒中に関する障害や症状について理解する	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%

【教科書】	標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版(医学書院)
【参考書】	講義で紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学,生理学を復習し授業に臨んでください

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
神経系理学療法学Ⅰ(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		増子 就斗 病院(理学療法士)10年勤務			増子
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

中枢神経系で代表的な脳卒中と脊髄損傷の病態について学び、基礎的な知識を定着することができる。
各疾患の評価方法や治療方法について理解を深めることができる。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①中枢神経系の構造と機能について理解を深める ②各種疾患の病態について理解を深める ③各種疾患に応じた理学療法評価、治療方法について理解を深める	知識・理解 論理的思考力

【履修上の注意】教科書や参考書を必ず持参して臨むようにしましょう.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	脊髄損傷の病態	脊髄損傷患者の病態を理解する 神経症状や様々な合併症を説明できる	個人
2	脊髄損傷患者に対する評価とアプローチ(1) 理学療法評価	脊髄損傷患者の理学療法評価を理解する 各種分類や評価を説明できる	個人
3	脊髄損傷患者に対する評価とアプローチ(2) 運動療法と日常生活動作	脊髄損傷患者の運動療法を理解する 各種運動療法やADLにおける動作・介助方法を説明できる	個人
4	パーキンソン病の理学療法	パーキンソン病の病態,障害を理解,説明できる	個人
5	パーキンソン病の理学療法	パーキンソン病の理学療法評価、運動療法を理解,説明できる	個人
6	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の理学療法	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の病態,障害を理解,説明できる	個人
7	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の理学療法	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の理学療法評価,運動療法を理解,説明できる	個人
8	筋ジストロフィーの理学療法	筋ジストロフィーの病態,障害を理解,説明できる 筋ジストロフィーの理学療法評価,理学療法を理解,説明できる	個人
9	筋萎縮性側索硬化症の理学療法	筋萎縮性側索硬化症の病態,障害を理解,説明できる	個人
10	筋萎縮性側索硬化症の理学療法	筋萎縮性側索硬化症の理学療法評価,理学療法を理解,説明できる	個人
11	多発神経炎・ニューロパチーの理学療法	ギランバレー症候群等の病態や障害を理解,説明できる 病態に応じた理学療法評価,理学療法を理解,説明できる	個人
12	多発神経炎・ニューロパチーの理学療法	多発性硬化症の病態,障害を理解,説明できる 多発性硬化症の理学療法評価,理学療法を理解,説明できる	個人
13	末梢神経損傷の理学療法	末梢神経損傷の病態,障害を理解,説明できる 末梢神経損傷の理学療法評価,理学療法を理解,説明できる	個人
14	重症筋無力症・多発性筋炎の理学療法	重症筋無力症の病態,障害を理解,説明できる 多発性筋炎症の病態,障害を理解,説明できる	個人
15	講義の振り返り	神経・筋疾患に対する理学療法について理解する	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%

【教科書】	標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版(医学書院)
【参考書】	講義で紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学,生理学を復習し授業に臨んでください

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
生活環境論(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	十文字　雄一 病院(理学療法士)10年勤務	十文字

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

高齢者や障害者が、住み慣れた地域社会での生活が継続できるように、生活の利便性や安全性向上のための住環境整備について学習する

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①高齢者や障害者の住環境について理解できる ②住環境整備における理学療法士の役割を理解できる ③福祉住環境コーディネーター2級相当の知識を得る	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 考え抜く力

【履修上の注意】　教科書を持参して下さい

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	高齢者の住環境と住宅施策	高齢者の住宅事情と住宅施策について理解する 高齢者の住宅事情と住宅施策について説明できる	個人
2	障害者の住環境と住宅施策	障害者の住宅事情と住宅施策について理解する 障害者の住宅事情と住宅施策について説明できる	個人
3	住環境整備におけるPTの役割	住環境整備におけるPTの役割と姿勢について理解する 住環境整備におけるPTの役割と姿勢について説明できる	個人
4	障害と自立支援	高齢者・障害者の特性を踏まえた環境整備のポイントを理解する 高齢者・障害者の特性を踏まえた環境整備のポイントを説明できる	個人
5	疾患別　福祉住環境整備	疾患別の住環境整備について理解する 高齢者や片麻痺者の住環境整備について説明できる	個人
6	障害別　福祉住環境整備	障害別の住環境整備について理解する 脊髄損傷者やリウマチ者の住環境整備について説明できる	個人
7	福祉住環境整備とケアマネジメント	介護保険制度における福祉住環境整備とケアマネジメントについて理解し、説明する事ができる	個人
8	福祉住環境整備の共通基本技術	住環境整備の進め方と留意点について理解する 住環境整備の進め方と留意点について説明できる	個人
9	住環境整備の基本的配慮	住環境整備の基本技術について理解する 住環境整備の基本技術について説明できる	個人
10	福祉住環境整備の手法①	住環境整備の基本的配慮について理解する 住環境整備の基本的配慮について説明できる	個人
11	福祉住環境整備の手法②	住環境整備の基本的配慮について理解する 住環境整備の基本的配慮について説明できる	個人
12	建築知識の基本	建築知識の基本について理解する 建築知識の基本について説明できる	個人
13	福祉用具	移動用福祉用具について理解する 移動用福祉用具について説明できる	個人
14	疾患モデルと福祉機器の活用①	事例検討 疾患モデルを考えて、適切な福祉機器を検討する	個人
15	疾患モデルと福祉機器の活用②	事例検討 疾患モデルを考えて、適切な福祉機器を検討する	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	小テスト　80% 受講態度　20%

【教科書】	標準理学療法学　日常生活活動学・生活環境学　第6版　医学書院
【参考書】	参考になるものがあれば、その都度紹介する

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　授業の内容をよく復習しておいてください.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
生活環境論(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	樫村　孝憲 病院(理学療法士)14年勤務	樫村

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

高齢者や障害者が、住み慣れた地域社会での生活が継続できるように、生活の利便性や安全性向上のための住環境整備について学習する

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①高齢者や障害者の住環境について理解できる ②住環境整備における理学療法士の役割を理解できる ③福祉用具の活用について理解できる	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 考え抜く力

【履修上の注意】教科書を持参して下さい

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	高齢者の住環境と住宅改修	高齢者の住宅事情と住宅施策について理解する 高齢者の住宅改修を提案できる	個人
2	高齢者の住環境と住宅改修		個人
3	障害者の住環境と住宅改修	障害者の住宅事情と住宅施策について理解する 障害者の住宅改修の提案ができる	個人
4	障害者の住環境と住宅改修		個人
5	疾患別　福祉住環境整備	疾患別の住環境整備について理解する 高齢者や片麻痺者の住環境整備について提案できる	個人
6	疾患別　福祉住環境整備		個人
7	障害別　福祉住環境整備	障害別の住環境整備について理解する 脊髄損傷者やリウマチ者の住環境整備について提案できる	個人
8	障害別　福祉住環境整備		個人
9	疾患・障害別　福祉機器の提案と活用	疾患や障害を理解し、適切な福祉機器の提案ができる	個人
10	疾患・障害別　福祉機器の提案と活用		個人
11	家屋調査	家屋調査における理学療法士の役割が理解できる 模擬的な家屋調査の実施ができる 家屋調査結果に基づいた家屋改修の提案ができる	個人
12	家屋調査		個人
13	福祉用具の活用	福祉機器の活用を理解できる 高齢者住宅について理解できる	グループ
14	症例検討	症例に即した家屋改修案の提案ができる	グループ
15	まとめ	まとめ	個人
期末試験	期末試験	評価方法	レポート 60% 小テスト 30% 受講態度 10%

【教科書】	標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学　第6版（医学書院）
【参考書】	講義で紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】各種疾患の特徴を押さえておきましょう.

【本講義に関しての質問先】担当教員　【質問方法】教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
見学実習 ※ 実務経験のある教員の授業科目	理学療法学科教員／臨床実習指導者	樫村

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	2	前期	(45)	実習	1

【授業の概要・目的】

チーム医療の一翼を担う理学療法士の役割を理解し、リハビリテーション理念の理解を深める
リハビリテーションの専門家としての心構えや態度を養成する

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
① 理学療法士に対する自己動機の確認や学習意欲を向上することができる ② 社会人および医療従事者として自覚をもった行動ができる ③ 病院・施設における理学療法士の業務を知ることができる ④ 理学療法士が対象とする主疾患について具体的な障害像を想像することができる	コミュンケーションスキル チームで働く力 専門職としてのｽｷﾙ・意識 態度・志向性 統合的学習体験

【履修上の注意】社会人としての自覚と責任を持った行動で臨むようにしてください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	実習オリエンテーション	見学実習の目的を理解する	個人
2	医療機関及び介護施設見学1日目①	実習指導者や職員と適切な行動や態度をとることができる	グループ
3	医療機関及び介護施設見学1日目②		グループ
4	医療機関及び介護施設見学1日目③		グループ
5	医療機関及び介護施設見学1日目④		グループ
6	医療機関及び介護施設見学2日目①	臨床場面を見学し各疾患の障害像をイメージすることができる	グループ
7	医療機関及び介護施設見学2日目②		グループ
8	医療機関及び介護施設見学2日目③		グループ
9	医療機関及び介護施設見学2日目④		グループ
10	医療機関及び介護施設見学3日目①	臨床現場の見学を通して動機付けや学習意欲を高めることができる	グループ
11	医療機関及び介護施設見学3日目②		グループ
12	医療機関及び介護施設見学3日目③		グループ
13	医療機関及び介護施設見学3日目④		グループ
14	見学実習報告会①	実習先での学習内容を発表する	グループ
15	見学実習報告会②		グループ

期末試験	評価方法		
実施しない	実習評価 50%	発表会の結果 20%	レポート 30%

【教科書】	特に指定しない.
【参考書】	特に指定しない.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】基礎的な知識を確認し、各疾患の障害像を理解できるようにしましょう。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて